



区民と区長のタウンミーティング
令和 8 年 7 月 1 1 日

障害のある子どもたちへの支援

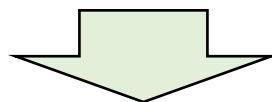
健康福祉部 障害福祉課

基本目標2

未来ある子どもの育ちを地域全体で支えるまち

政策8

まち全体の子育ての力を高める



施策2.1

特別な配慮を必要とする子どもとその家庭への一貫した相談支援体制の充実

主な取り組み

- 一貫した地域相談支援体制の整備
- 発達課題等がある子どもの支援
- 医療的ケアを必要とする子どもへの支援

基本目標3

誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち

政策13

誰一人取り残されることのない支援体制を構築する



施策30

障害者への相談支援体制と地域生活移行を支える環境の整備

主な取り組み

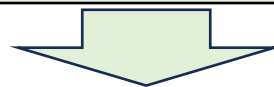
- 地域生活を支える相談支援の充実・強化
- 福祉人材の確保・育成
- 地域生活への意向に係る支援体制整備の拡充
- 障害福祉サービス基盤の充実
- 難病患者等への支援体制の整備

基本目標3

誰もが生涯を通じて安心して自分らしく生きられるまち

政策14

誰もが自分らしく輝ける地域社会を形成する



施策32

障害者の就労や社会参画の推進

主な取り組み

- 関係機関と連携した一般就労への支援と定着
- 就労機会の拡大、体験・訓練の場の創出
- 障害者就労施設等における受注機会・販路の拡大
- 障害者に対する理解促進と社会参画支援の充実

身体障害

①視覚障害②聴覚又は平衡機能の障害③音声機能、言語機能、咀嚼機能の障害④肢体不自由⑤内部障害等の身体上の障害があり日常生活に不自由がある状態。

知的障害

知的機能の障害が発達期（おおむね18歳まで）にあらわれ、日常生活に支障が生じているため、何らかの特別な援助を必要とする状態。

精神障害

統合失調症、精神作用物質による急性中毒又はその依存症、知的障害その他のほかの精神疾患。

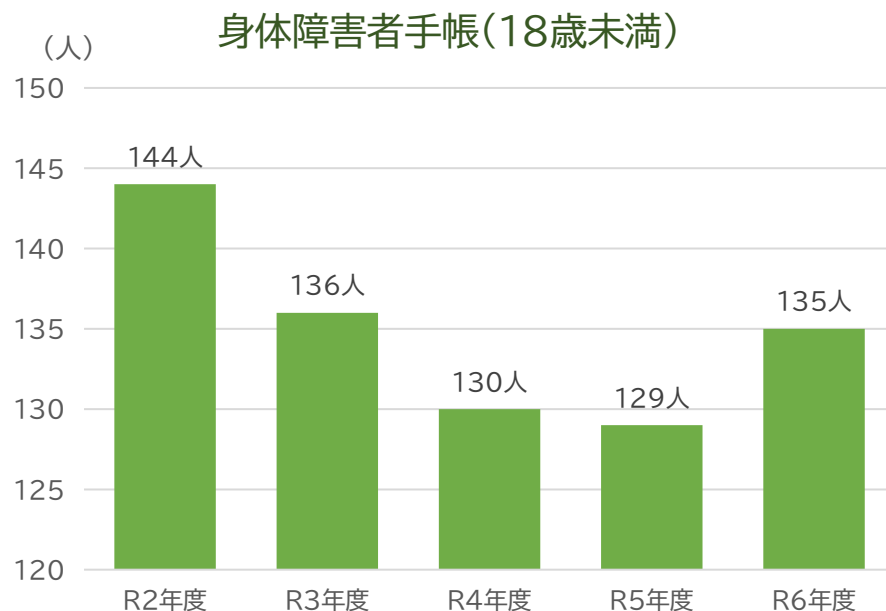
発達障害

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害、学習障害、注意欠陥多動性障害、これに類する脳機能障害であってその症状が通常低年齢において発現する。

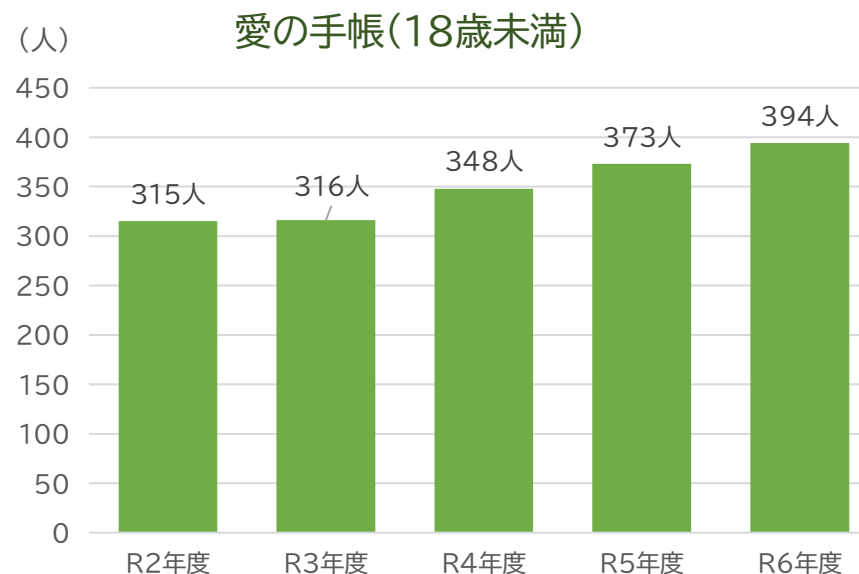
03 身体障害者手帳・愛の手帳所持者（18歳未満の推移）

中野区内においては、令和6年4月1日時点の18歳未満の人口が37,570人に対して、身体障害者手帳を持つ子どもは、令和6年度において**135**名、知的障害がある愛の手帳を持つ子どもは**394**名となっている。

身体障害者手帳所持者の推移



愛の手帳所持者の推移



出典：令和7（2025）年度版中野区健康福祉部事業概要

本人支援

本人支援の5つの要素（「健康・生活」、「運動・感覚」、「認知・行動」、「言語・コミュニケーション」、「人間関係・社会性」）を踏まえたアセスメントを行った上で、支援内容を組み立てていくことが求められます。

家族支援

親子関係や家庭生活の安定・充実を図るとともに、関係者が十分な配慮を行い、保護者に寄り添いながら一人一人にあった支援が求められます。

移行支援

障害のある子どもが、可能な限り、地域の保育、学校等で適切な支援を受けられるようにしていく事や、地域での仲間づくりができるよう支援することが求められます。

地域支援・連携

障害のある子どもや家族を中心に考え、様々な機関が協力して支援を進めていくことが重要です。

(1) 児童発達支援（児童福祉法に基づく支援）

▼事業内容

日常生活における基本的な動作の指導や集団生活への適応支援等を行います。個々の状況及び発達過程・特性等に応じた発達上の課題を達成させていくための本人への発達支援・家庭への支援・幼稚園・保育園等と連携を図りながら支援を行います。

▼対象児童

未就学で支援が必要なお子さん

▼実施事業所

療育センターアポロ園、療育センターゆめなりあ、子ども発達センターたんぽぽ、他民間事業所29か所

▼利用実績

令和7年度 延べ7,678人

(2) 放課後等デイサービス（児童福祉法に基づく支援）

▼事業内容

授業終了後又は学校休業日に、生活能力向上のための支援、社会との交流促進等を行います。学校や家庭とは異なる時間・空間・人・体験を通じて、個々のこどもの状況に応じた発達支援を行います。

▼対象児童

就学児で支援が必要なお子さん

▼実施事業所

放課後デイサービスセンターみずいろ、療育センターゆめなりあ、子ども発達センターたんぽぽ
他民間事業所（区内34か所）

▼利用実績

令和7年度 延べ8,136人

(3) 居宅訪問型児童支援（児童福祉法に基づく支援）

▼事業内容

重度の障害の状態その他これに準ずる状態にあり、児童発達支援、放課後等デイサービスを受けるために外出することが著しく困難であると認められた障害児に対し、居宅を訪問し、日常生活における基本的な動作の支援、知識技能の付与、生活能力の向上のために必要な支援を行います。

▼対象児童

就学前～18歳に達するまで（原則）

▼実施事業所

子ども発達センターたんぽぽ

▼利用実績

令和7年度 延べ43人

(4) 保育所等訪問支援（児童福祉法に基づく支援）

▼事業内容

保護者の依頼に基づいて、対象児が通っている保育園・幼稚園・学校等を支援員が訪問し、保育園や幼稚園、学校等と連携して集団生活上のお子さんの成長、発達を支援していきます。

▼対象児童

中野区にお住まいで保育園、幼稚園及び学校等に通園・通学するお子さん

▼実施事業所

療育センターアポロ園、療育センターゆめなりあ、他民間事業所（区内4か所）

▼利用実績

令和7年度 延べ1,396人

(5) パARENTメンター事業

▼事業内容

発達障害や発達に課題のある子どもを育てている保護者に対し、同じ経験を持つ先輩親（ペアレントメンター）が相談や情報提供を行う相談支援事業です。令和8年6月現在、登録メンターは19名。

(6) 重症心身障害児（者）等在宅レスパイト・就労等支援事業

▼事業内容

医療的ケアが必要な重症心身障害児や医療的ケア児のご自宅の他、お子さんが在学する学校等に訪問看護師を派遣し、日頃ご家族が行っている医療的ケア等をご家族の代わりにおこなうことで、家族の一時休息及び就労支援を図る事業です。

(7) 医療的ケア児の保育・教育

▼事業内容

区立沼袋保育園、区立白鷺保育園、区立本町保育園では医療的ケアが必要で、かつ集団保育が可能な中野区在住のお子さんを対象に、保育を行います。対象は1歳児クラスから5歳児クラスのお子さんで各クラス1名、各園2名の受け入れ枠となっています。なお、学齢期についても区立学校や区立学童クラブにおいて、医療的ケア児の受け入れを進めています。

(8) 通学等支援事業（移動支援）

▼事業内容

障害のある児童・生徒が学校や学童クラブに通う際に、保護者の疾病・就労、その他やむを得ない事情により、通学等の介助ができない場合に、区が支援するサービスです。これまでは、小・中学生を対象としていましたが、平成30年4月より対象を高校生まで拡大しました。

(9) 障害児通所支援施設の一時保護事業

▼事業内容

障害のある子どもの保護者が、疾病等により介護することが困難な場合に、日中、一時的に施設で保護を行います。区立障害児通所支援施設4か所（日々定員2～3名）で受入れを行っています。

◆その他様々なサービスがあります

(1) 医療的ケア児等専門相談窓口の設置

▼取組内容

医療的ケア児とそのご家族が、地域で安心して生活できるよう令和8年4月1日に障害福祉課に「医療的ケア児等専門相談窓口」を開設しました。

この窓口では、日常生活や保育・教育、福祉サービスの利用、関係機関との連携などに関する相談をお受けします。ご相談内容を伺い、関係部署や関係機関と連携しながら支援につなげます。

▼対象

中野区在住の医療的ケア児等とそのご家族、及びその他支援関係者等

▼相談受付方法・時間等

- 【受付方法】 ・来庁：区役所3階5番窓口 ・電話：03-3228-2777
・メール：hattatsushien@city.tokyo-nakano.lg.jp

【受付時間等】 月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く） 午前8時30分～午後5時00分



(2) 医療的ケア児SNS相談「なかのいっしょmiline」^{ミライン}の開設

▼取組内容

医療的ケア児とそのご家族に必要な支援を提供するため、主に対面相談である「中野区医療的ケア児等専門相談窓口」と併せて、時間や場所の制約なく、より気軽に相談及び情報収集が可能なSNS相談「なかのいっしょmiline」を令和8年7月1日に開設しました。

このSNS相談では、退院後の生活や就学等のタイミングでの新たなサービスの利用、日々の子育て・生活の悩み等について専門相談員がLINEで回答するとともに、登録者には、子育てや生活に関するアドバイス、地域の情報等、医療的ケア児家庭に有用な情報を週1回程度定期配信します。

▼対象

中野区在住の医療的ケア児とそのご家族

▼利用方法

【利用方法】LINE公式アカウントに友だち登録 ※対象者の方には、区より直接ご案内しています。



(3) 医療的ケア児ガイドブックの作成

▼取組内容

医療的ケア児とそのご家族が支援につながりやすくなるよう、成長過程に合わせたサービスの相談先や制度など、子育てに必要な情報がわかりやすく伝わるデジタルガイドブックを作成します。

▼構成（案）

- ・NICU等、病院からの退院後の生活がイメージできる構図
- ・年代等、成長に伴った変化に応じた制度やサービスの構図
- ・各種制度の紹介
- ・各種相談及び手続き等の窓口案内
- ・手当・医療費助成等の一覧
- ・各種関係機関の説明
- ・災害時対応

▼発行時期等

中野区HPに令和8年10月に掲載予定



※上記ページ内に掲載予定

(4) 重症心身障害児（者）等在宅レスパイト・就労等支援事業の拡充

▼取組内容

医療的ケアの必要なお子さんの健康の保持と介護するご家族等の負担軽減及び就労支援のため、訪問看護師が家族等に代わって医療的ケアを行う事業です。令和8年4月1日より、年間利用上限時間を144時間から288時間に引き上げるとともに、実施場所について、自宅のほか、学校等に拡充しました。

▼対象

中野区在住の在宅生活を送っている医療的ケアの必要な重症心身障害児（者）等を介護するご家族

▼利用時間・利用者負担

【利用時間】・1回あたり：2時間～4時間まで
・年間利用上限時間：288時間

【利用者負担】利用者の世帯収入及び利用時間による ※詳しくは区HP参照

※利用は30分単位

※詳しくは区HP参照

2024年4月1日

中野区重症心身障害児（者）等 在宅レスパイト・就労等支援事業のご案内

1 サービス内容

医療的ケアが必要な重症心身障害児（者）や医療的ケアが必要なご家族の他、お子様が在学する学校等に、訪問看護師を派遣し、日頃ご家族が行っている医療的ケア等をご家族の代わりに行います。

一定時間、訪問看護師がご家族の代わりに医療的ケアを行うことで、ご家族の一時休養（レスパイト）やリフレッシュ、就労等支援を目的としています。

※学校等とは…お子様が在学する特別支援学校その他の専修学校及びこれに相当する施設とされる施設で、区役所に指定されています。（学校等の敷地内に限ります）

2 サービスを利用できる方

下記の3つのすべてに該当する方で、かつ①、②のいずれかに当てはまる方

- ◆区内に住所がある方
- ◆在宅で家族等による介護を受けている方
- ◆障害、医療関係で訪問看護による医療的ケアを受けている方
- ①世帯の世帯主・世帯副が世帯の世帯主・世帯副にわたり、区内に住所がある18歳未満の、医療的ケア（30分）が必要な重症心身障害児（者）を見守っている世帯主等を見守る世帯
- ②18歳未満で、重度の知的障害（要介護1または2）があり、かつ重度の肢体不自由（身体障害者手帳1級または2級または不自由）がある方
※世帯主等が世帯主等でない場合、世帯の世帯主より大分（1～4）に該当している場合は利用できません。

(5) 障害児の長期休暇期間中の居場所づくり事業

▼取組内容

障害児の家族等の就労継続支援を図ること等を目的として、区内の放課後等デイサービスを提供する民間事業所において、学校の長期休暇期間中に、サービス提供時間前後の時間帯に、障害児の朝夕の居場所として、同事業所を利用する障害児の受入れを行います。

▼対象

本事業を実施する事業所を利用する児童（小学生～高校生） ※1事業所あたり1日最大10名

▼実施か所・利用時間

- ①放課後等デイサービスウィズ・ユ一新中野（送迎あり）
- ②Catch and Smile新中野

▼利用時間・利用料

【利用時間】

学校の長期休暇期間中（夏休み・冬休み・春休み）の平日

- ①午前8時～10時
- ②午前9時～9時30分、午後4時30分～午後5時

【利用料】 無料

(1) 発達の課題等がある子どもの支援

①療育相談

- ▶ 相談体制の拡充
- ▶ 手続きの簡略化

・相談からサービス利用までにどのくらいかかりましたか？
・どのような手続きが負担でしたか？
・改善してほしい点がありますか？

②障害児通所支援事業所等基盤整備

- ▶ 新たな児童発達支援センターの整備

・どのような居場所があるとよいですか？
・居場所が必要な時期や時間帯は？

③障害児通所支援事業所等運営補助

- ▶ 障害児の居場所づくりの促進



(2) 医療的ケアを必要とする子どもへの支援

①医療的ケア児等支援事業

- ▶ 区立施設等における受入体制の充実
- ▶ 家族・きょうだい支援

- ・看護師や対応できる職員の人数・配置は十分ですか？
- ・区立学校・保育園や学童の利用のしやすさは？
- ・通学・通園にあたり、保護者負担はどの程度ありますか？
- ・心理的サポートとしては、どのような支援があるとよいですか？
- ・きょうだいへの支援として必要なことは？

・在宅レスパイト事業の学校等での活用状況は？

②重症心身障害児（者）等在宅レスパイト・就労等支援事業

- ▶ 重症心身障害児（者）等在宅レスパイト・就労等支援事業の推進



06 令和7年度障害福祉サービス意向調査 発達支援調査（参考）

●回答者から寄せられた自由意見

高校卒業以降も利用できる放課後等デイサービスのような場所がほしい。

子どもの受け入れ先の拡充。特に小学校卒業後の居場所がなく困っている。

子どもの将来の社会参加や18歳以降の進路が見えず不安があるため、最善の選択ができるようなモデルケースの紹介があると良い。

医療的ケアの受け入れ施設について、ケア内容によらず可能な限り受け入れを行ってほしい。

保育園と同じくらい、長時間子どもを預かってもらえる療育園があるとうれしい。

児童発達支援や放課後デイサービスの送迎サービスを充実させてほしい。